2018年度の事業概況

2018年度の事業概況

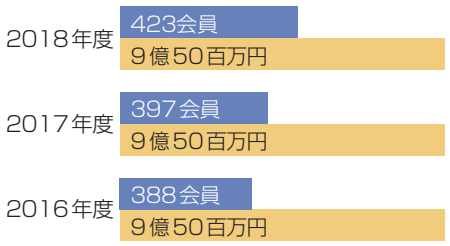
1 会員数・出資金の状況

当金庫の事業基盤である団体会員は、2018年度中に30団体が加入しましたが、組織解散等によって4団体が脱退したため、期末では423会員となりました（期首比26会員増）。

間接構成員（ろうきんの会員である団体に所属されている一人ひとりのお客さま）の数は、期首から4,847人増加し、期末には89,247人となりました。

出資金は、対前期比と同額の9億50百万円となりました。

◎会員数・出資金の推移

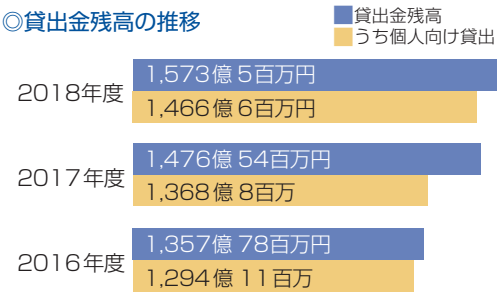


2 貸出金の状況

貸出金は、期首から96億51百万円増加し（増加率6.53%）、期末残高は1,573億5百万円となりました。

うち個人向け貸出は、期首から97億97百万円増加し（増加率7.16%）、期末残高は1,466億6百万円となりました。また、団体向け貸出は、期首から1億46百万円減少し（増加率△1.35%）、期末残高は106億98百万円となりました。

◎貸出金残高の推移



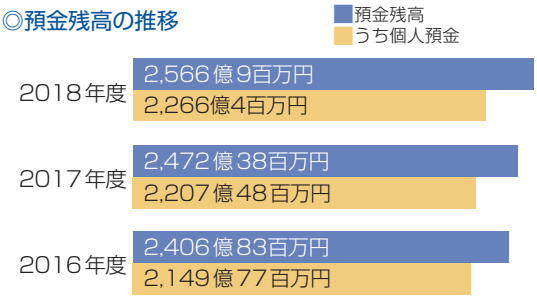
3 預金の状況

預金（譲渡性預金含む）は、期首から93億70百万円増加し（増加率3.78%）、2,566億9百万円となりました。

そのうち、個人預金については、期首から58億56百万円増加し（増加率2.65%）、期末残高は2,266億4百万円となりました。また、団体預金については期首から35億14百万円増加し（増加率13.26%）、期末では300億4百万円となりました。

※個人預金には確定拠出年金定期預金（DC定期）を含みません。

◎預金残高の推移



4 収益の状況

経常収益は、貸出金利息の増加等により、前期に比べ67百万円増加し（増加率1.88%）、36億25百万円となりました。

一方、経常費用は、経費の減少等により、前期に比べ26百万円減少し（増加率△0.80%）、33億9百万円となりました。

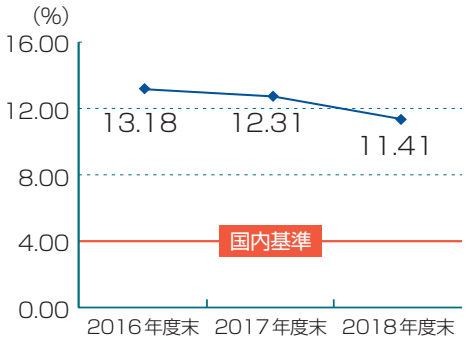
この結果、経常利益は前期に比べ94百万円増加し（増加率42.53%）3億15百万円となりました。

最終損益となる当期純利益は、2億90百万円となりました。

5 自己資本比率の状況

自己資本比率は、金融機関経営の健全性を示す代表的な指標のひとつです。この自己資本比率が高いほど、経営体力があるといえます。沖縄ろうきんのように、国内業務のみを行う金融機関の自己資本比率は4%以上であることが求められています。

2018年度末における自己資本比率は11.41%(単体)となりました。引き続き、国内基準である4%を大きく上回る水準を維持しています(自己資本の構成および充実度等につきましては、55～69ページをご覧ください)。



6 リスク管理債権の状況

リスク管理債権とは、何らかの理由により返済されない等の貸出金のことをいいます。貸出金に占めるリスク管理債権の割合を示した比率をリスク管理債権比率といい、この比率が低いほど経営の健全性が高いといえます。

2018年度末におけるリスク管理債権の合計は9億20百万円で、貸出金残高1,573億5百万円に占める割合(リスク管理債権比率)は0.58%となりました(前年度比0.02ポイント増加)。

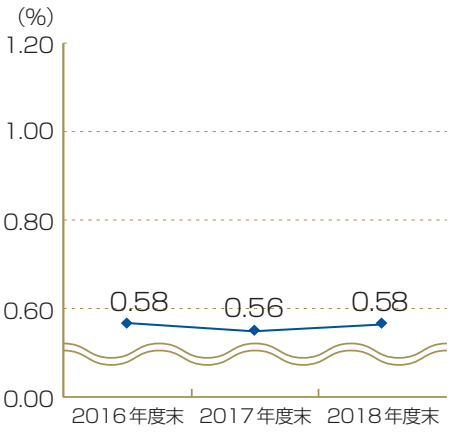
担保･保証等による回収および貸倒引当金によって、リスク管理債権全てをカバーしており、お客さまからお預かりした預金の安全な運用管理を心がけています。

◎リスク管理債権

単位:百万円

区　分	2018年度末	2017年度末	2016年度末
リスク管理債権合計(A)	920	830	792
破綻先債権	55	3	5
延滞債権	845	810	767
3カ月以上延滞債権	19	15	20
貸出条件緩和債権	–	–	–
保全額(B)	921	830	792
担保･保証等による回収見込み額	913	816	774
貸倒引当金	7	13	18
保全率(B)／(A)	100.00%	100.00%	100.00%
貸出金残高(C)	157,305	147,654	135,778
リスク管理債権比率(A)／(C)	0.58%	0.56%	0.58%

◎リスク管理債権比率の推移



※用語の解説については、48ページをご覧ください。